

## 事例 37 避難指示解除区域における実証事業

(関東森林管理局)



- 福島県 双葉（ふたば）郡  
川内村（かわうちむら）  
館山（たてやま）国有林
- 実証事業による間伐の実施箇所の様子



- 福島県 双葉郡  
葛尾村（かつらおむら）  
大笹（おおざさ）国有林
- 実証事業箇所のチップ被覆の様子

関東森林管理局では、原発事故に伴う放射性物質の影響が残る避難指示解除区域内の国有林野において、森林整備等の実証事業に取り組んでいます。間伐の実施に当たり、高性能林業機械<sup>\*</sup>の活用、伐採跡地へのチップの被覆、立木樹皮の放射性物質濃度の測定方法等について検証を行い、放射性物質の拡散防止や作業員への影響の低減に配慮した森林施業の方法を検証しています。

令和元年度は、福島県川内村、葛尾村、飯館村<sup>いいたてむら</sup>及び南相馬市<sup>みなみそうまし</sup>の避難指示解除区域内の国有林野において、施業による空間線量率の変化の調査や空間線量率の水準、自然条件等に適した作業システム等について具体的な手法の検討を行うとともに、福島県川俣町<sup>かわまたまち</sup>の避難指示解除区域内の国有林野においては、比較的放射性物質濃度の高い樹皮の部分について、剥皮方法等の検討や地域における木材供給の可能性についての調査を行いました。

今後、平成 27 年度から実施されてきた実証事業による知見を項目ごとに取りまとめ、広く普及することで、避難指示解除区域等における森林整備・木材生産が円滑に進められるよう取り組んでまいります。